

S H I M I N P H O T O

市民フォト

KAGOSHIMA

鹿児島



NO. 109

平成19年8月1日発行



【 悠 雄 】
～みなと大通り公園～

CONTENTS

〔特集〕観光がごしま	3
篤姫が見た鹿児島	12
クローズアップ	14
鮫島 吉廣さん	
カメラトピックス	16
梅田 あかねさん	
中名の棒踊り	
ふるさと再発見／民俗芸能編	22
あなたのフォトサロン	24
鹿児島女子高等学校写真真部	
伝統工芸	26
薩摩切子	
イベントアルバム	27
桜島観光納涼船30周年	
とれたて旬のがごしま	28
一万ウリ	
今日も元気です!!	29
名山小学校区公民館	
わが町上空 土地区画整理事業編	30
原良第1～3地区	

★表紙写真説明

おもてなしの心で観光案内
(観光客と観光語り部)



明治42年11月鹿児島線全通時の鹿児島駅(JR九州鹿児島支社提供)

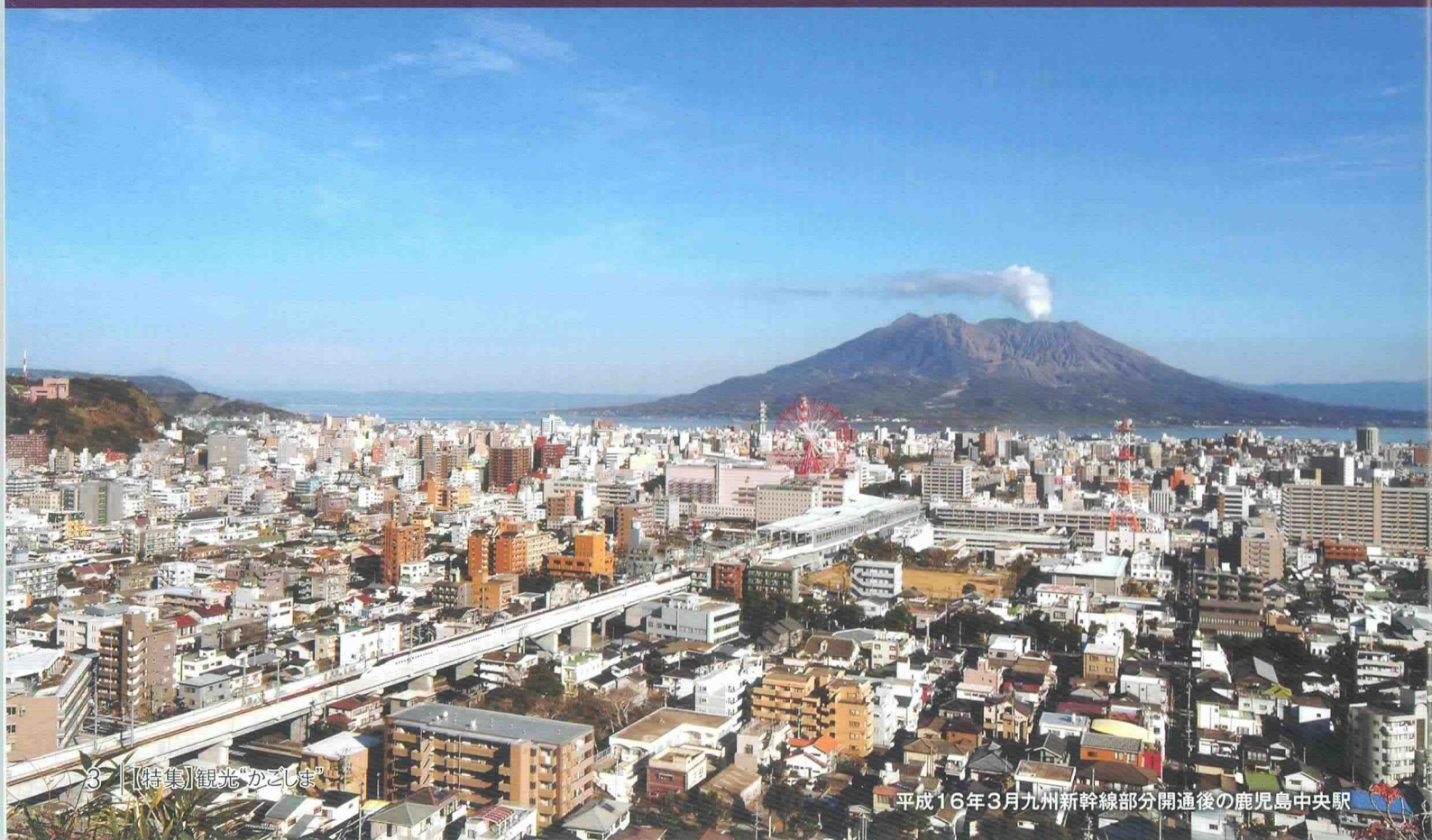
特集

観光

“かごしま”

世界規模での交流が盛んになる今日、鹿児島市では観光を地域の魅力を輝かせるものとしてとらえ、観光を視点としたまちづくりを官民一体となって進めています。

古くから多くの観光客が訪れる“鹿児島”。今回の特集ではその歴史をひもときながら、新幹線時代の鹿児島の観光について考えてみました。



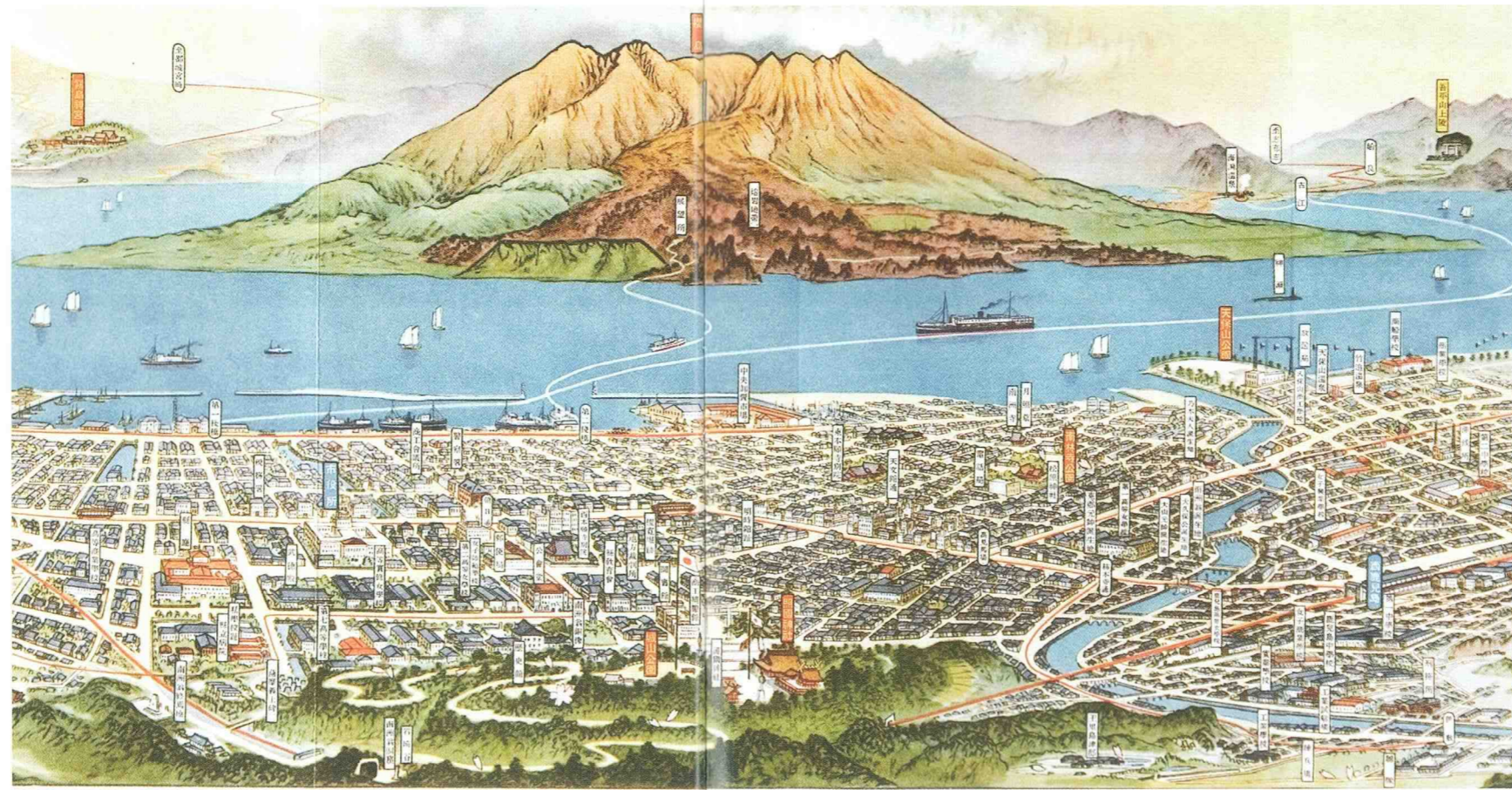
観光かごしまの歴史

お伊勢参りなどの信仰の旅が始まりといわれるわが国の観光が、広く国民一般で行われるようになったのは、明治に始まる鉄道の整備やその後の自動車の普及が進んでからでした。

こうした交通機関の発達などにより、大正から昭和の初めにかけて

国内観光旅行ブームに合わせるように、鹿児島市にも多くの観光客が訪れるようになりました。その数は年々増加し、昭和14年度には約14万人と戦前の最高を記録しました。

その後、わが国の観光は戦争により一時中断しましたが、戦後の目



■ 鹿児島観光図
鹿児島市発行・昭和15年(鹿児島県立図書館蔵)

覚ましい交通機関の発達や高速交通網の整備、余暇活動への意識の高まりとともに、観光旅行が盛んに行われるようになり、本市にも戦前にも増して多くの観光客が訪れるようになりました。そして、その数は順調に推移し、今日では250万人を超える観光客が訪れています。

多くの観光客が本市を訪れることは、街にぎわいと活力をもたらします。市では、これまで観光案内板の充実や観光マップの作成など受入態勢の充実を図り、また、維新ふるさと館やかごしま水族館などの新たな観光資源を創出し、観光客の誘客に取り組んできました。

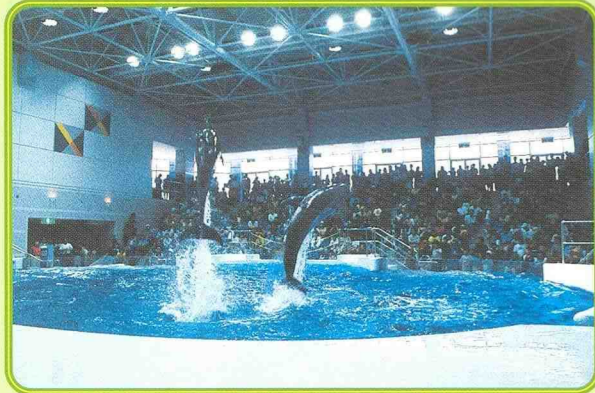
21世紀に入り、世界全体の旅行者数は約7億人ともいわれる大交流時代を迎えています。3年半後に迫った九州新幹線全線開業は、飛躍的に移動時間の短縮が図られ、観光への大きなインパクトを与えることから、市では観光を視点とした新たなまちづくりを進めるため、平成17年度に「観光未来戦略」を策定。魅力多様な国際観光都市の創造に官民一体となって取り組んでいます。



西郷隆盛銅像を背景に記念撮影する新婚さん(昭和40年代)



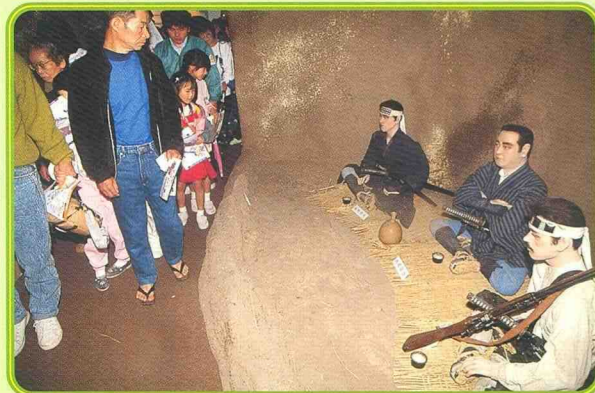
九州新幹線部分開業(平成16年3月)
利用者は年間300万人を超え、本市観光に大きなインパクトをもたらしました



かごしま水族館開館(平成9年5月)
鹿児島島の海をテーマに展示。今年10周年を迎え、入館者は700万人を突破しました



カゴシマシティビュー運行開始(平成6年3月)
市内の主要観光地を約1時間で周遊する観光バス。自分のプランで巡る観光客に好評です



NHK大河ドラマ「翔ぶが如く」放映(平成2年)
ドラマの舞台「鹿児島」を多くの観光客が訪れました



クイーンエリザベス2初寄港(昭和54年3月)
世界最大級の観光客船「QE2」が谷山港に初寄港



定期観光バス(昭和40年代)
定期観光バスに長蛇の列ができました



城山展望台(昭和30年代)
世界屈指のロケーション。今も多くの観光客が訪れます

写真で見る

観光の移り変わり





ドラマ上演の主演、西郷ロボットの点検に余念がありません
(維新ふるさと館)

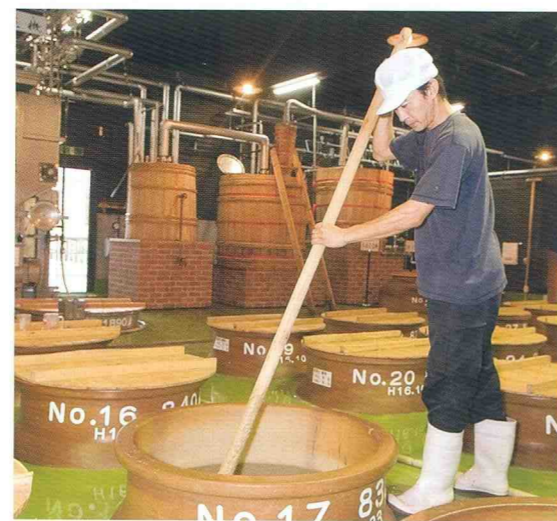


ようこそ! 鹿児島へ(運輸業)

鹿児島の旅を演出します



わたしたちも観光案内に一役買います(かごしまボランティアガイド研修生)



心を込めて作ります(焼酎製造業)



鹿児島の海からの贈りものをご覧ください(かごしま水族館)



旅の疲れをゆっくり癒やしてください(宿泊業)



観光語り部

ボランティアによる観光案内。主要な観光スポットで
鹿児島の魅力を分かりやすく説明します



鹿児島中央駅総合観光案内所

旅の心強い味方。観光客のさまざまな問い合わせに
親切丁寧に対応します

人々に安らぎを与え、活力を回復
させるとともに生活に潤いを与えて
くれる「旅」。近年の旅行スタイルは、
従来の通過型・団体型の観光から、訪
れる地域の自然・生活文化・人との触
れ合いを求める交流型・個人型へ転換
してきているといわれています。

宿泊業や運輸業、製造業などの観
光産業従事者はもちろん、市民一人ひ
とりが旅の演出家として観光客の皆
さんに「来てよかった」「もう一度訪れ
てみたい」と感動してもらえよう、
おもてなしの心で接することが何よ
りも大切です。

鹿児島の旅はおもてなしの心と笑顔で

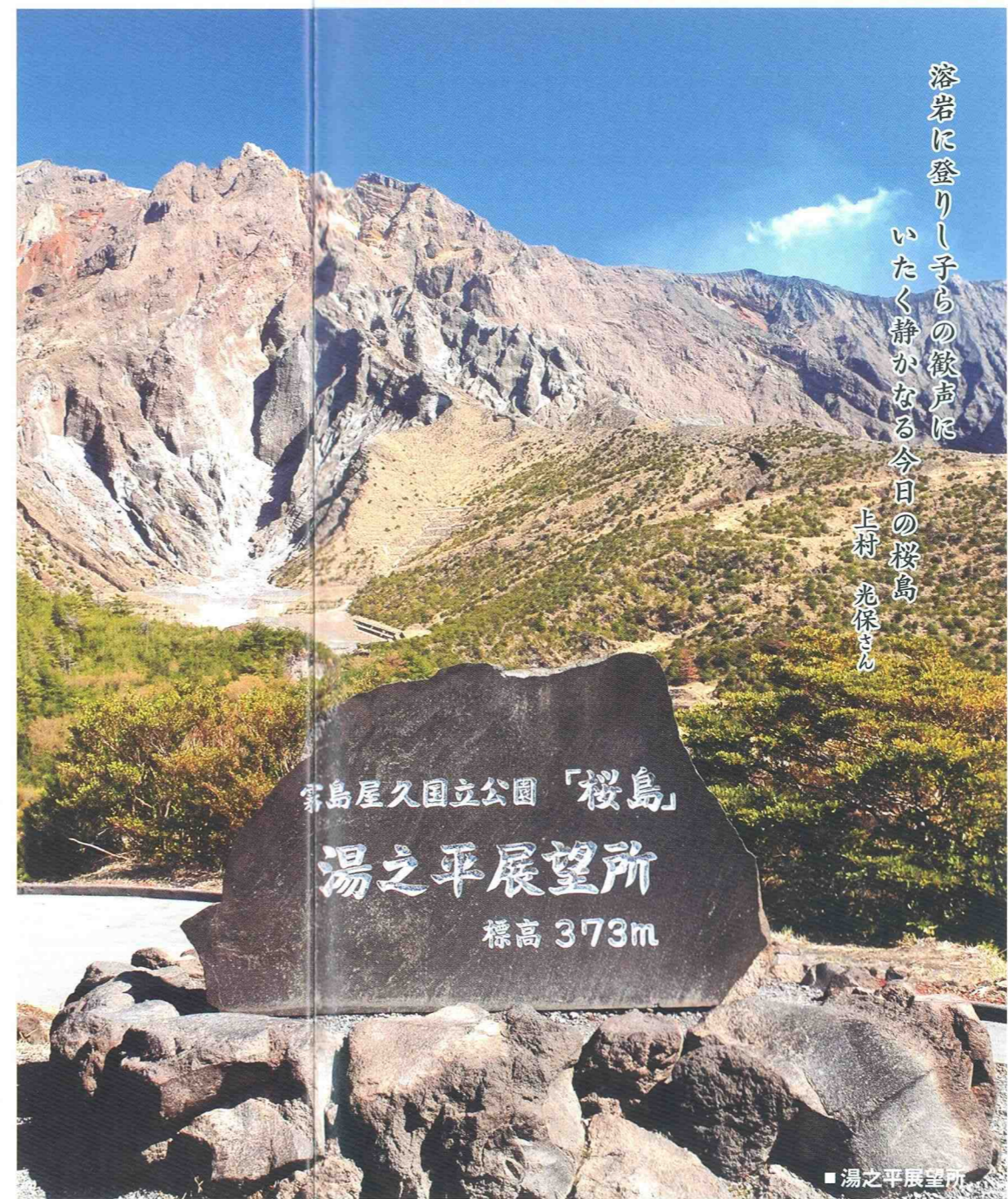
鹿児島の旅の思い出と共に、心に残る情景

雄大な桜島や波静かな錦江湾をはじめとする南国らしい美しい自然や豊かな風土と歴史に培われた史跡など多彩な観光資源を有する鹿児島市。
市では多くの観光客が訪れる城山展望台などの観光スポットに俳句短歌ポストを設置し、鹿児島の旅を題材にした俳句や短歌を投稿していただいています。

投稿作品はどれも、鹿児島島の風景の美しさや人情の温かさ、歴史の奥深さに触れたときの感動や喜びなどが詠まれ、観光客の心に残った情景が目に浮かんできます。



昭和48年に設置



溶岩に登りし子らの歓声に
いたく静かなる今日の桜島
上村 光保さん



君を得て早や銀婚の春迎え
共に清く城山に立つ
大和 茂樹さん

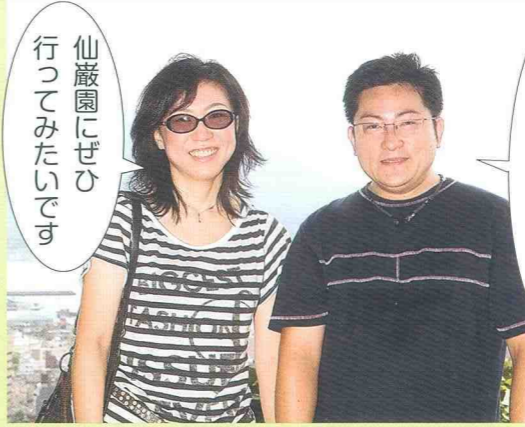


史跡 西郷隆盛洞窟

城山に關のこゑ聴く若葉かな
武村 幸子さん

観光客
から
ひとこと

福岡・熊本・鹿児島と九州縦断の旅をしています



仙巖園にぜひ行ってみたいです

岡本 聡さん・良美さん(北海道)

今回は桜島観光を楽しみに来ました



20年ぶりの鹿児島旅行です

横田米吉さん・みち子さん(愛知県)

修学旅行で鹿児島に来ました



意外と都会。自然も景色も素晴らしいです

西舞鶴高校の皆さん(京都府)

桜島はいつ見ても素晴らしいですね

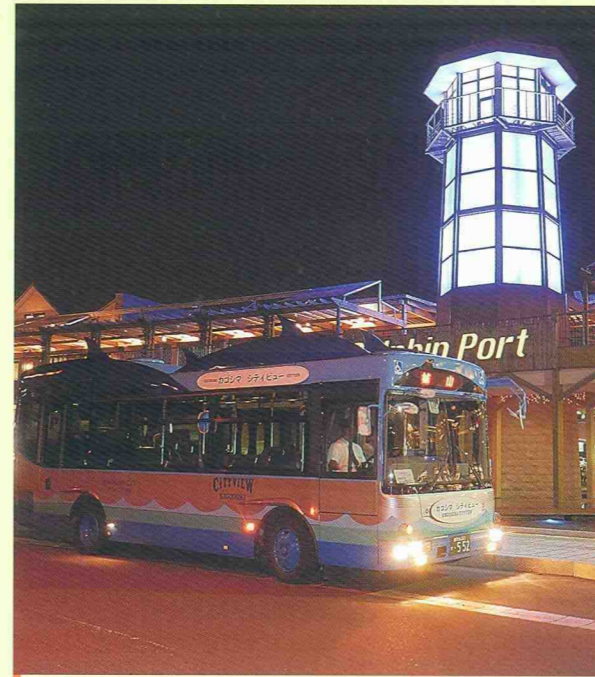


久しぶりに鹿児島を訪れました

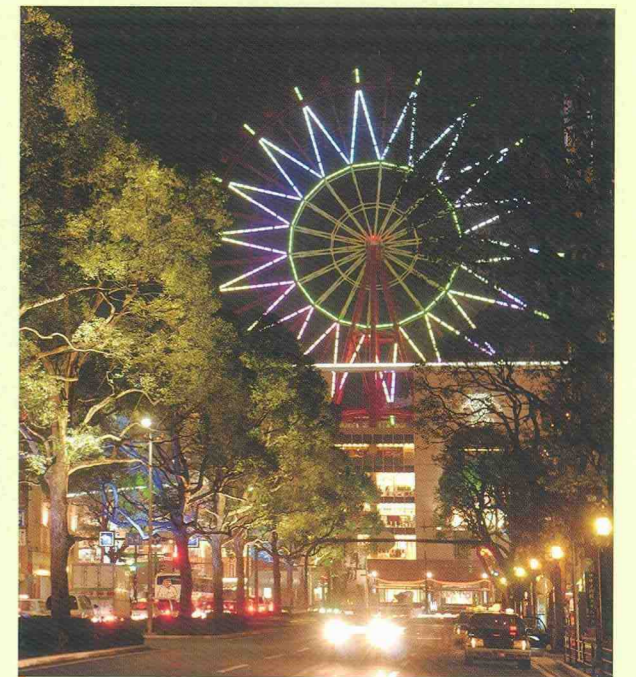
谷口 勉さん・ゆみ子さん(宮崎県)

進めます!一味違う鹿児島市の魅力づくり

鹿児島市では、観光未来戦略に基づき、魅力あふれる都市の創造に向けて、さまざまな取り組みを進めています。



夜景も楽しめるカゴシマシティビュー



幻想的な光が鹿児島の夜を彩る



緑のじゅうたんは新たな観光“かごしま”の顔

市長に聞く

「観光「かごしま」の飛躍に向けて」



森 博幸 市長

■観光振興に対する基本的な考え方をお聞かせください。

鹿児島市は、桜島と錦江湾など世界有数の景観に恵まれています。また、旧5町地域の豊かな自然や明治維新の時代を中心とした歴史・文化遺産、黒豚など全国的に評価の高い食材など、観光資源が豊富にあります。これらの観光資源を総合的にPRし、交流人口を増やすことがこれからの鹿児島市にとって重要であると考えています。「住む人・訪れる人」がともに快適な都市空間を享受し、交流によるにぎわいと活力に満ちたまちづくりのための取り組みを進めていきたいと思っています。

■観光客の皆さんには、鹿児島のどんなところを楽しんでいただきたいと思われれますか。

桜島など自然の中に身をおいて、その素晴らしさを体感したり、歴史観光や食、温泉なども堪能していただきたいと思っています。そして何より、地元の人と接する中で、鹿児島の人の温かさを感じてもらえたらと思います。そのことによって、観光客の皆さんが癒やされる場所になればと思います。

■これまでの訪問された場所で、特に印象に残っている場所がありますか。

最近訪問したシンガポールは、さまざまな人種が集まって交流しているまちでした。本市も、あらゆる国の人が気軽に訪れ、交流を楽しめるまちにしていきたいと思っています。

■これまでの取り組みの成果と今後の取り組みについてお聞かせください。

3年半後の新幹線全線開業や来年のNHK大河ドラマ「篤姫」の放映など、本市の観光には追い風が吹いていると実感しています。これまで、本市の観光振興の指針となる観光未来戦略に基づき、ファンタスティックイルミネーション推進事業やシテイビュー夜景コースの運行など、多様化する観光客のニーズにこたえてきました。今後も観光資源を最大限生かすため、観光未来戦略に基いた、ハード、ソフト両面でのさまざまな施策を着実に進めていきたいと



歴史探訪の散策を楽しめる空間に(歴史ロード“維新ふるさとの道”(仮称)のイメージ図)

思います。特に、人材の育成は不可欠です。ボランティアだけでなく、行政、企業、地域が一体となって、観光客を温かく迎えるまちにするための取り組みに力を入れていきたいと思っています。また、どんなにいい素材があっても情報発信しなければ宝の持ち腐れ。これまでかごしまプロモーション推進室の新設など組織的整備を行ってきました。今後も県や経済団体など一体となって情報発信に努め、本市の魅力アピールしていきたいと思っています。

篤姫が見た

鹿見島

その1

「プロローグ」生いたち

天璋院篤姫は、天保六（一八三五）年今和泉家の島津忠剛の娘として生まれた（天保七年という説もある）。嘉永六（一八五三）年、薩摩藩主島津斉彬の養女に、さらに安政三（一八五六）年京都の公家・近衛忠熙の養女となって十三代将軍徳川家定のもとへ嫁ぎ御台所（正夫人）となった。

同五年、夫の家定が病没。その後も江戸城内にあつて大奥を束ね続け、明治元年（一八六八）年、島羽・伏見の戦いで旧幕府軍が敗北すると、十四代将軍家茂の御台所であつた和宮（孝明天皇妹）とともに、明治新政府に徳川家存続を願い出、これを認めさせ

た。そして十六代当主徳川家達を立派に育て上げ、明治十六（一八八三）年に病没した。

小説家の宮尾登美子氏が、その波乱に富んだ人生を「天璋院篤姫」という歴史小説にまとめ、二〇〇八年のNHK大河ドラマでこれがドラマ化されることになった。

さて、篤姫は、鹿見島城下にあつた今和泉邸で誕生したと記録されているが、どこで育つたのかは記録がなく定かではない。

宮尾登美子氏の「天璋院篤姫」では、篤姫は今和泉家の領地であつた今和泉（指宿市）の領主飯屋（現今和泉小学校）で育つたとされている。これは伝承による。当時、上級武士は家族ともども鹿

見島城下に住むというのが慣わしで鹿見島城下で暮らした可能性もある。薩摩藩御城下絵図を見ると、上町地区に複数の今和泉邸の記載がある。

今和泉家の本邸は大龍寺（現大龍小学校）の西隣、中屋敷は春日神社の東手、下屋敷は清水馬場（現鹿見島市消防局上町分遣隊の東手一帯）や田

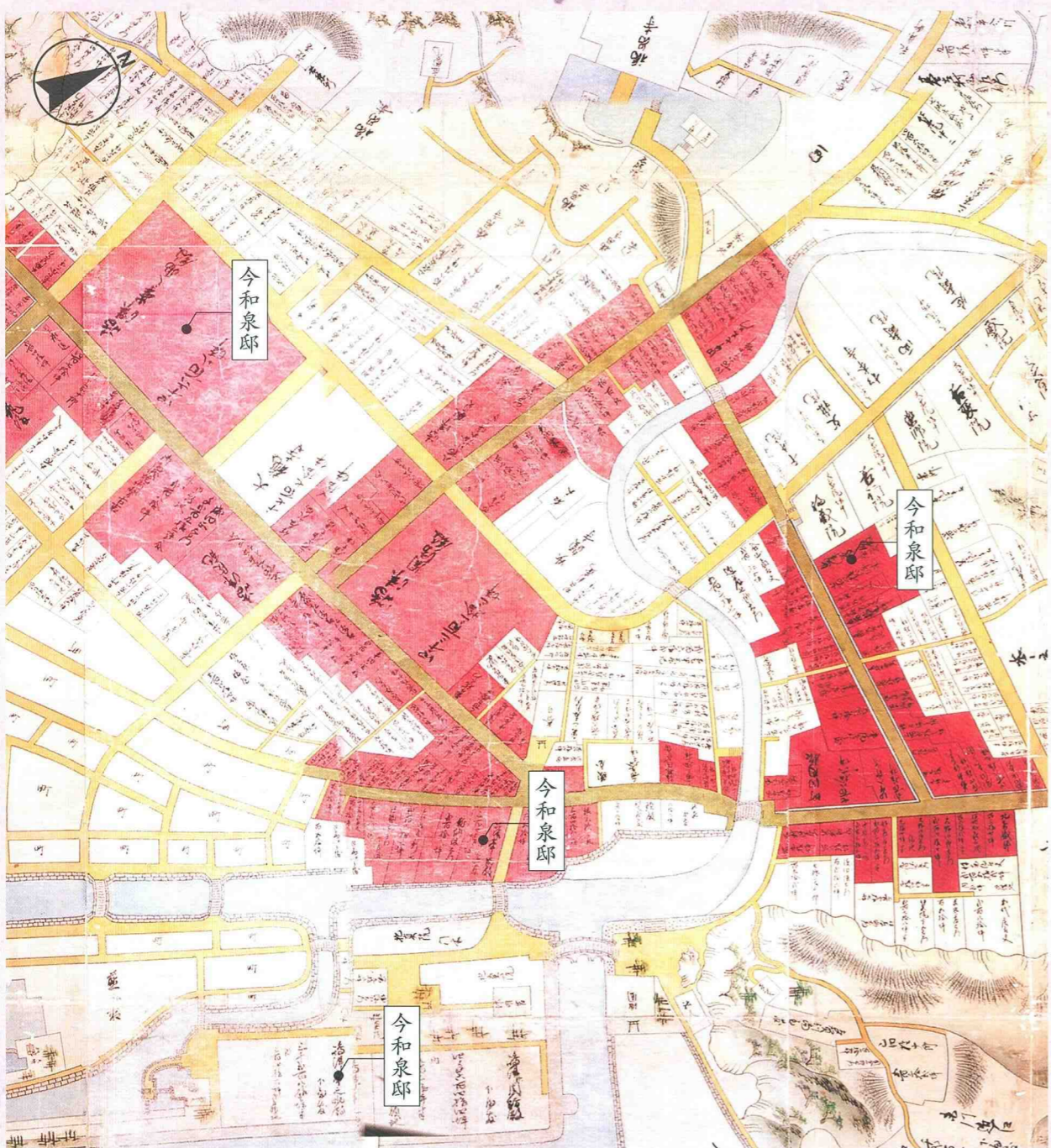
之浦（現多賀山公園駐車場南手一帯と重富荘一帯）、浜町（現石橋公園一帯）、磯などにあつた。篤姫はこうした城下の屋敷で育つた可能性が高いのではないかと思っている。

文尚古集成館副館長

松尾 千歳



「天璋院篤姫」(尚古集成館 蔵)



「薩摩御城下絵図」(鹿児島県立図書館蔵)



石橋公園一帯(浜町)には今和泉家の下屋敷があつた



春日神社(春日町)東手には今和泉家中屋敷があつた



鹿児島県の焼酎を 世界ブランドに

昨年度、鹿児島大学に国内初の焼酎の専門講座として開設された「焼酎学講座」。焼酎メーカーと県からの寄付で農学部生物資源化学科に開設され、焼酎製造学と醸造微生物学の2つの研究室からなる。

鮫島吉廣さんは長年、焼酎メーカーで製造や研究に携わってきた経験を生かし、焼酎製造学の教授として、将来の焼酎産業の発展を担う高い技術と知識をもった人材の育成に取り組む。

「焼酎の不思議」

実家がお菓子屋だったので、食品関係の勉強をしたかと思いきや京都大学の農学部へ進学。卒業後は、ウイスキー会社を経て、県内の焼酎メーカーに入社した。ウイスキーの製造に関わる中で、当時はまだ鹿児島以外でほとんど飲まれていなかった故郷の酒、焼酎の特異な点に興味を持った。まずはその製造方法。酒づくりと

いうのはたいがい寒い場所が適している。鹿児島のような暖かい土地では、発酵させるとき微生物に汚染されやすい。それにもかかわらず醸造設備が整った大きな工場もない環境で昔から焼酎を作っている。また、傷みやすいサツマイモを原料としていることも含めて、よほどの技術がないとできないと感じた。

焼酎の飲み方も他の酒と比べても珍しい。焼酎はウイスキーやブランデーと同じ蒸留酒。「みそ汁に例えると、そのまま飲むのが清酒やワインで、湯気を集めたものが焼酎やウイスキー。世界的に見ても食事の最後に飲まれるのはワインやビールといった醸造酒であって、蒸留酒が食卓に上がる例はほとんどない。その中で焼酎は一次会の酒の性質を持つユニークな蒸留酒。また、原料であるサツマイモの特性が味や香りにそのままあらわれるというののほかの蒸留酒にはない特徴なんです。」

「焼酎研究の世界的拠点に」

今年の4月から学生の受け入れが始まり、3年生8人と大学院に4人の社会人が在籍し、焼酎の製造、焼酎文化論、企業経営などを学ぶ。また、社会人向けの公開講座でも焼酎と食文化に関する講座が設けられている。鮫島教授は「焼酎を通じて鹿児島文化や風土、地域全体のことに関心をもってもらい、広い視野で地域に貢献できる人材を育てたい」と話す。

今後は、焼酎の歴史や文化は法文学部、蒸留は工学部、健康面での働きは医学部といったように、学部の垣根を越えた研究を進めることも視野に入れている。

「原料の研究や中国との連携など焼酎の世界をさらに広げる取り組みはまだまだあるんですよ。」
鹿児島県の焼酎がウイスキーやブランデーと並んで、世界中で飲まれる酒になることも決して夢ではない。



「黒瀬杜氏」についての講義



鹿大のメインストリート「北辰通り」沿いに6月に完成した研究棟

鮫島 吉廣さん

略 歴

- 昭和22年 南さつま市(旧加世田市)に生まれる
- 昭和46年 3月 京都大学農学部食品工学科卒業
- 昭和46年 4月 ニッカウヰスキー(株)入社
- 昭和51年 9月 薩摩酒造(株)入社
- 平成3年 9月 薩摩酒造(株)常務取締役研究所長 兼 製造部長
- 平成18年 8月 退社
- 平成18年10月 鹿児島大学農学部焼酎学講座教授





5月13日
第10回渋谷・鹿児島おはら祭
過去最大規模の約2000人の踊り手の皆
さんが東京・渋谷の繁華街をおはら節や渋
谷音頭に合わせて練り歩きました。



4月27日
かごしま水族館開館10周年記念式典
ジンベエザメやイルカでおなじみのいおワ
ールドかごしま水族館が開館10周年を迎え
ました。5月19日には開館以来の入館者が
700万人を突破しました。



4月6日～
ブックスタート事業開始
赤ちゃんに絵本を贈り、読み聞かせを実践
してもらおうと始まりました。今年度は約
5500人へのプレゼントを見込んでいます。



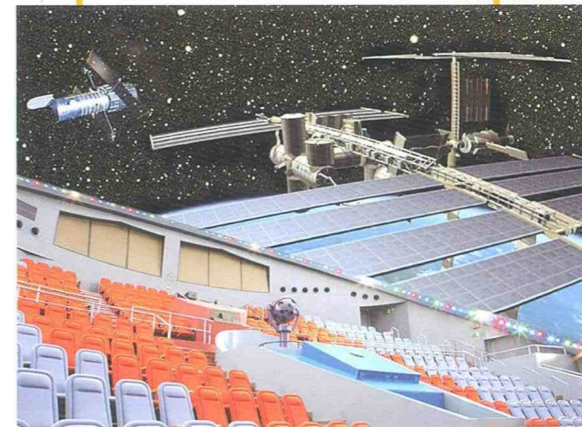
3月24日～
環境パートナーシップかごしまを設立
地球温暖化など地球的課題の解決に向
け、市民、事業者、市が協働してよりよい環
境づくりに取り組みます。



5月31日
らくらく体操フェスティバル
転倒や骨折、体の機能低下を予防しようと
開発された「らくらく体操」。参加した1000
人の皆さんが、介護予防や健康づくりに対す
る意識を高めました。



5月8日
防災点検
梅雨や台風の時期を前に、市街地と桜島で
防災点検を行いました。



4月20日～
科学館プラネタリウムリニューアル
プラネタリウムの星空と最新のデジタル映像
を融合した「ハイブリッド・プラネタリウム」に
生まれ変わり、より自然で美しい宇宙の映像
を体感できるようになりました。



4月1日～
新北部清掃工場本稼働
最新の技術を導入した新北部清掃工場が
本稼働。焼却灰の資源化など、循環型社
会にふさわしい機能も備えています。



鹿児島県及び県内市町村間の
災害時相互応援協定 調印式

6月27日
鹿児島県及び県内市町村間の災害時
相互応援協定調印式
大規模な災害が起きた市町村への県や近
隣市町村の応援活動を迅速円滑に実施
するため、協定が締結されました。



5月9日～15日
第39回南国鹿児島の物産と観光展
多くの皆さんでにぎわう神戸市の百貨店で、
市長が鹿児島の食と観光をPRしました。



4月26日～
市電軌道敷緑化・ライトアップ
完成記念式典、新型電車運行開始
潤いのある都市空間の創出やヒートアイラ
ンド現象の緩和を目的とした軌道敷の緑化・ラ
イトアップ。連接式超低床電車ユートラムⅡ
とあわせて、新しい観光「鹿児島」の顔として
の役割も期待されています。



4月上旬
歴史と文化の道

パートナーシップシティ

市民とのパートナーシップによるまちづくりを進める「鹿児島市」。
福祉や教育などさまざまな分野にわたる地域課題の解決に向け、行
政と協働して取り組む市民活動団体やNPO法人などを紹介します。

Vol.1 NPO法人 地域サポートよしのねぎぼっず



自分たちの住むまち・吉野地域
が「人が行き交い、人が輝くまち」
となるよう、高齢者や子育て家庭
への支援、防犯パトロールなど地
域のニーズにあつたさまざまな非
営利活動を展開するNPO法人
「地域サポートよしのねぎぼっ
ず」。

その活動を、今年度から開設し
た学童保育施設「よしのっ子ジュニ
アクラブ」を通して紹介します。

NPO法人設立の経緯は

「マイタウンよしの」という地域
情報誌づくりを平成5年8月から
スタート。吉野地域の「ひと・も
の・こころ」を情報発信してい
くうちに、わがまちにも少子高齢化
の波が押し寄せ、また、核家族の増加
によりコミュニティが希薄化してい
ることを肌で感じるようになり
ました。そこで、こうした地域が抱
える課題の解決に少しでも役立ち
たいと思い、平成17年4月にNPO

新たな挑戦！学童保育スタート

学校から帰宅した子どもたち
の遊ぶ姿を見かけることが少なく
なったことや仕事を持つ親が増え、
放課後の子どもたちの居場所が不
足していたことから、今年4月に学
童保育施設「よしのっ子ジュニアク
ラブ」を開設しました。施設の設置
場所の選定や建設費用の負担など

3カ月経過しての手応えは

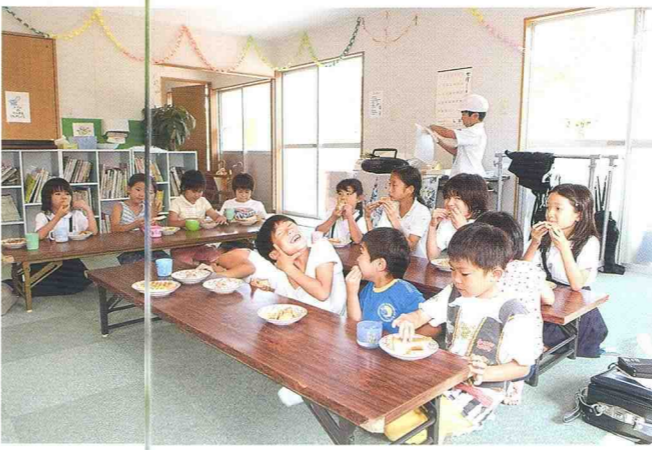
現在、小学1年～6年生まで、16
人を預かっています。
平日は放課後から18時まで、土
曜日や学校の夏休みの長期休暇期
間は9時から18時まで預かり、昼
食も出します。
6月に開催した保護者会では、高
学年までを対象としていることや
18時までの保育であることに助かっ
ているとの評価の声もいただきました。
そして、何よりも子どもたちの
生き生きしたと表情を見ていると
開所して良かったと感じています。



建物は約90㎡。保育士や看護師などの資格を持つ保育サポーターが交替で保育にあたる



宿題が終わったらみんなでドッジボール



楽しいおやつ時間

サタデーワーク

よしのっ子ジュニアクラブでは、土曜日に料理づ
くりや農作業体験などの地域との交流や自然との
触れ合いなどの体験活動も行っています



さつま揚げづくりに挑戦



ジャガイモの収穫体験

サタデーワークは誰でも参加できます。
詳しくは☎243-3778まで

市民活動団体などによる地域
課題解決に向けた取り組みが定着
し、浸透するためには、かなりの時
間と利用者の理解が必要です。ま
ちづくりに取り組む行政がこうし
た活動を理解、支援してくれるこ
とは大変心強く思っています。
わたしたちの活動はまだまだ手
探りの状態ですが、「ひと」が輝く
地域となるよう活動の輪を広げて
いきたいと思っています。

話をしてくれた人

NPO法人
地域サポートよしのねぎぼっず
理事長 永山 恵子さん



取材メモ

地域の課題解決に少しでも役立て
ばと取り組む「よしのねぎぼっず」の
皆さん。取材を通して、まちづくりは
決して行政のみで進められるもの
ではなく、みんなで一緒に考えて取り
組んでいくことが、今求められている
だと痛感しました。

西郷さんの生き方を追い求め 多くの人に魅力を伝えたい

横須賀で生まれ、地元の高校を卒業し就職。20歳のころ、父が読んでいた海音寺潮五郎の歴史小説をふと読み始めたところ、作品中の西郷さんに魅せられました。それから西郷さんの人としての魅力を探っていくようになりました。

21歳の時に初めて鹿児島を訪ねて以来、何回もゆかりの史跡を訪ね歩くうち、もつと西郷さんのことを知るには生まれ育った所に住んでみるしかない、と、歯科助

南洲墓地

上町や桜島を一望できる丘の上にある南洲墓地には、明治10（1877）年の西南戦争で敗れた西郷軍の戦死者が眠っています。

墓地は、西郷さんの墓を西郷軍に従軍した薩摩や全国からの若い将兵たちの墓が取り囲むように並んでいます。そして桜島の方を向いて、今でも鹿児島を守っている、そんな雰囲気が好きです。住んで4年になりますが、自分の原点となる場所だと思っています。



小学校などで自作の紙芝居を分かりやすく演じる

手の仕事を辞めて4年前に鹿児島に移住。昔から伝わる行事への参加など、四季の移ろいを通して風土や文化に触れる日々です。そして当初は国内留学という感じで1・2年住む予定でしたが、今では住めば都といえますか、住み心地がよくて都以上ですよ。

わたしにとって西郷さんの魅力は、日本初の陸軍大将になったとか、江戸城無血開城をしたといった歴史的偉業よりも、私利私欲のない、人としてのスケールの大きさ、「敬天愛人」などの西郷哲学にあると思います。

特に好きなエピソードは、西郷さんが明治政府を辞めて鹿児島に帰ってきて、畑



西郷隆盛研究家

梅田 あかねさん

昭和50年、神奈川県横須賀市生まれ。市立横須賀商業高校卒業。西郷隆盛にひかれ、平成15年歯科助手を辞めて鹿児島市に移り住む。市内のホテルのレストランに勤めながら、西郷隆盛の研究に励む。



My favorite Place

私の好きな場所

偉い人なのに身近に感じるところがあり、現代人にとっても西郷さんの生き方そのものが道徳の勉強になると思います。学校などで子どもたちに西郷さんに関する紙芝居を演じたり、高齢者にお話をしたりすることもあります。より多くの人に西郷さんの魅力を知ってもらうため、自分が役立てたらとてもうれしいですね。

「取材メモ」

西郷さんのことをもつと知りたいと横須賀市から西郷さんの故郷へ移り住む行動力と意気込みに驚きました。あらためて西郷さんの偉大さと魅力を感じつつ、もつと西郷さんのことを知りた

中名の棒踊り

なかみょう



(所在地) 喜入中名町、写真は中名中棒踊り保存会による棒踊り

丁々発止と打ち合う勇壮な棒の舞

県内各地で広くみることができ、喜入町郷土史によると、いつのころから始められたか不明で、豊臣秀吉の朝鮮戦役の際に泗川の戦いで大勝した島津義弘がこの勝利を記念するとともに、藩民皆兵の考えから創案し、農民に奨励したとする説、東郷重方(示現流創始者・東郷重位の子)が新田開発に従事する農民の士気を鼓舞するために示現流剣法を舞踊化して奨励したとする説、さらには伊勢神宮のお田植えに奉納される棒踊りを模倣したとする説のほか、豊作祈願の踊りとも考えられると記されています。

この踊りやテンポの違いは、藩政時代にはゆるやかに踊られていたものが、明治期になって勇ましさを競い合うようになったためともいわれます。

棒踊りは、指揮者・踊り子・歌い手の三者で構成。鬼面を用いた指揮者は心棒(神棒)を持ち、さらびやかな衣服をまとい、踊り子は、そのの琉球紵に角帯を締め、白鉢巻き、紅白たすき、脚絆、手甲、草履の色鮮やかな衣装で、歌い手のお囃子に合わせて、六尺棒や三尺棒を激しく打ち合います。

踊り子を先導し、ユーモラスなしぐさで隊列を整える鬼面の指揮者は喜入地域特有のもので、棒踊

りのほか「前之浜チヨイのチヨイ」や「二倉の鎌踊り」などでも同じものを見ることが出来ます。

集落ごとの三つの棒踊り保存会のうち、活動が最も盛んなのが中名中棒踊り保存会。平成八年四月の保存会復活以来、東京の靖国神社や東郷神社での奉納、昨年の中名小学校創立百三十周年記念式典での踊り披露のほか、児童に対する継承活動なども精力的に行っています。

「カッ！カッ！」棒を激しく打ち合う気合の入った音からは、藩政時代以来の尚武の気風と、郷土芸能の灯火を絶やさないとする保存会の皆さんの熱い想いを感じ取ることが出来ます。



■思わず笑みがこぼれる鬼面の指揮者のコミカルな踊り

■児童と保存会の競演による棒踊りの披露



取材メモ

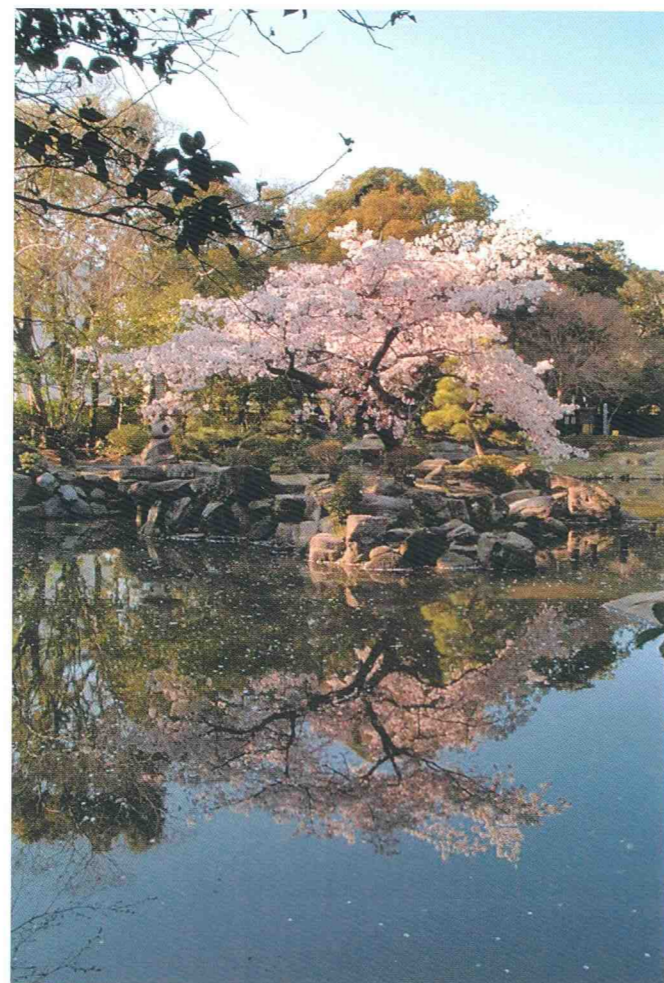
取材時は、棒踊りの歌詞にある「清めの雨」ならぬ土砂降りのため、急ぎよ中名小学校での撮影に。朗々と響くお囃子の声に合わせた勇壮で色鮮やかな踊りは躍動感に満ちあふれ、梅雨時の沈みがちな気持ちを吹き飛ばしてくれました。

「名勝 玉里邸庭園」

鹿児島女子高等学校写真部



「夏」



「春」



「秋」



「冬」



「長屋門」



「毎日の清掃作業」



「入口階段」

伝 統
工 芸

鹿児島の技



「にしよくき二色被せ卓上花瓶」

鮮やかな色彩を放つ

手技のぬくもり

薩摩切子

130年の時を越えて

薩摩切子は、島津家28代斉彬の時代に作り始められました。その製造はわずか20年足らずで途絶えました。

昭和60年、世界に誇るガラス工芸の歴史を再興させたいとの思いから、約130年ぶりに薩摩切子の復元が始まりました。

新たな歴史を刻む

薩摩切子の最大の特徴は、ガラスに色ガラスをかぶせ、カットする事によりできる独特の「ボカシ」という技法。



制作者

なかね ぶさこ
中根 総子さん

薩摩ガラス工芸株式会社の創設当時から薩摩切子のデザイン・制作に携わる。

現在、新色の島津紫を用いて、来年放送のNHK大河ドラマ「篤姫」をテーマにした作品を制作中。

また、その色は、紅、藍、金、赤、緑、黄、紫、ルリに加え、8色があります。

写真の作品は、2色のガラスを重ねた生地をカット・イングした「にしよくき二色被せ」という新しい技法で作られています。色を重ねることによって、独特の発色と、カットの部分に色のグラデーションが生まれます。

再興から20年が過ぎ、藩政時代の制作期間を越えた今、伝統を守りながらも、現代の職人たちの手により新たな歴史が作り出されています。



イベント

EVENT ALBUM

アルバム

桜島納涼観光船 30周年



旬
のかごしま

市内各地には
おいしい旬のめぐみがいっぱい。
取れたて新鮮、安心な市内産の
大地のめぐみ、海のめぐみと
生産者おすすすめレシピをご紹介します。
あなたの食卓を、
鹿児島島の旬のめぐみで
彩ってみてはいかがでしょうか。

～ニガウリ～

ニガウリ生産農家

飯福 正人さん



鹿児島で夏を感じさせる野菜といえば、この野菜を思い浮かべる人も多いはず。濃い緑色、イボイボ、独特の苦みが特徴のニガウリ。ニガゴイ、ゴーヤ、レイシという呼び方で知っている人も多いだろう。

郡山地域のニガウリ生産農家 飯福正人さんの畑では、6月から始まった収穫作業が進んでいる。

ニガウリ畑は想像していたものとはずいぶん違っていた。ニガウリが頭の上になっている。縦にツルを這わせるよりも上で横に這わせた方が、ニガウリに万遍なく日があたり、きれいな緑色になるのだという。

「最近雨が続けているから今朝は少なかったよ」と正人さん。それでもコンテナ5箱を出荷。収穫作業は夜明けとともに始まる。ニガウリの温度が低いうちに収穫することで、鮮度が保たれ、味もよくなるという。



早朝からひとつひとつ丁寧に収穫

朝収穫したものは、早ければその日のうちに市内の店頭にも並ぶ。新鮮なニガウリを食べられるのも、市内産ならではの、おいしいものを見分けるコツは、緑が濃く、切り口が新鮮であること。

「もう20年近くニガウリを作っていると、お水が飲みたいよ、お腹がすいたよ、大きくなつたよ、おいでおいでっていう声が聞こえてくるの」と奥さんのマリさんはやさしい笑顔で話す。

ビタミンCなどの栄養たっぷりのニガウリ。鹿児島の太陽と、生産者の愛情をいっぱい浴びてこの夏もぷつくりと育っている。

「ニガウリと鮭のさっぱりちらしずし」

生産者
おすすすめ
レシピ

1. 材料(4人分)

ニガウリ1/2本、塩鮭2切れ、ごはん茶碗3杯、すし酢(市販のもの)大さじ5杯、白ごま小さじ2杯、塩小さじ2杯、炒り卵適量、シソ適量

2. 料理手順

- ① 塩鮭はよく焼いて、皮、骨を取り除き、身を細かくほくす
- ② ニガウリは縦半分になり、種をスプーンでかき出し、斜めの薄切りにする塩をふって軽く混ぜ2～3分おき水気を切る
- ③ 温かいご飯をボールに入れ、すし酢と白ごまを全体的にふりかけて軽く混ぜ合わせる
- ④ ③に②と①を混ぜ込んで、彩りに炒り卵とシソの葉の細切りを添える

今日 Everyday Healthy Life も元気です!!

いつまでも健やかに心豊かに暮らすことはみんなの願い。市では、健康づくりの輪を広げるため市民の健康づくり計画「かごしま市民健康55プラン」を策定し、市民の皆さんの健康づくりを応援しています。

このコーナーでは、誰にでもできる健康づくりに取り組んでいる団体を紹介します。

■ 名山小校区公民館 ■



城山遊歩道を歩く名山小校区の皆さん

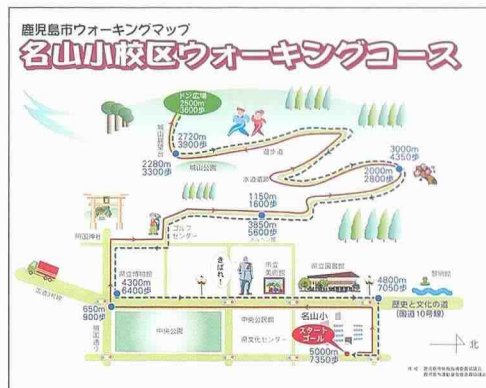
名山小校区では3年前にウォーキングマップ(地図)を作成しました。コースの一部になっている城山遊歩道では以前、校区内のあいご会が毎週日曜日にウォーキングを行っていました。その後途絶えていましたが、5年ほど前から校区公民館主催のウォーキング大会として毎月1回行われています。

町内会単位で城山展望台近くのドン広場までウォーキング。広場では体操やゲーム、子どもたちへの絵本の読み聞かせなども行

います。子どもから高齢者まで幅広い年齢層が多く参加し、異世代間の交流の場にもなっています。

ウォーキングは、周りの景色を楽しみながら自分のペースで手軽にできる運動です。

市が平成17年に行ったアンケート調査では、市民の1日の平均歩数は減少しており、国や県と比べても少ない状況。まずは、プラス1000歩を目指して、健康づくりに努めましょう。



【歩くことの効用・方法も掲載したウォーキングマップ】

参加者からひとこと

毎朝10kmほど歩いています。若いころ病気をしたとき城山展望台へ散歩したのがきっかけで昭和45年から歩き始めました。ほとんど毎日歩いているので、生活の一部になっています。朝のすがすがしい空気を浴びながら歩くとストレスの解消にもなります。

さあ、皆さんも歩き始めてみませんか。
(名山小校区 体育指導委員 吉水 光朗さん)

わが町上空

土地区画整理事業編



「原良第1〜第3地区」

都心部に近く、公共施設や学校の多い文教市街地として、土地区画整理事業が進行中の原良第1〜第3地区。平成5年の8・6水害を教訓に、甲突川の治水や内水対策と一体的に事業が進められています。

多くの公共施設が立ち並び甲突川河畔。鹿兒島刑務所跡地に立つ鹿兒島アリーナは、国際規模のスポーツ大会や身近なレクリエーション活動の場として多くの市民に親しまれています。西部保健センターに併設されているかこしま温泉健康プラザは、温泉を存分に活用した健康づくりスポットとなっています。

西消防署横の鹿兒島実業高校跡地には、参加体験型の環境学習やリサイクル活動の拠点として、環境未来館(仮称)が来年夏以降の完成を目指して建設中です。

川や緑地が街並みと調和する落ち着いたたたずまいを生かし、人と環境に優しい快適なまちづくりが進められています。

区画整理は「都市計画の母」といわれるように、戦災復興から現在に至る本市の都市計画事業の主役として市街地整備が進められています。

原良第1地区は昭和63年度〜平成14年度に整備が終了。現在、第2地区(平成7年度〜)、第3地区(平成11年度〜)が施行中です。

市民フォト

鹿児島

No.109

編集・発行／鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11番1号

電話 216・1133

印刷・レイアウト／潮上印刷株式会社

